

2026年7月7日

イオン株式会社
公益財団法人イオン環境財団
生物多様性条約事務局

「The MIDORI Prize for Biodiversity 2026」受賞者決定

8月27日に授賞式・受賞者フォーラムを東京で開催

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田 元也 イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長、以下 当財団）と生物多様性条約事務局（事務局長 アストリッド・ショーメーカー 以下 SCBD※）は、このたび「The MIDORI Prize for Biodiversity 2026（第9回生物多様性MIDORI賞）」の受賞者2名を決定しました。受賞者を顕彰するとともに授賞式および受賞者フォーラムを東京にて開催いたします。

【 受賞者 】

苗字アルファベット順

リサ・パグンタラン=マルテ（フィリピン）

フィリピン生物多様性保全財団（PhiBio） エグゼクティブ ディレクター



【受賞理由】

25年以上にわたりフィリピンの生物多様性保全に取り組み、絶滅したと考えられていたフィリピンハダカコウモリの再発見や、ビサヤサイチョウをはじめとする絶滅危惧種の調査・保全において顕著な成果を挙げてきた。さらにフィリピン生物多様性戦略・行動計画の地域実装を主導するとともに、生物多様性保全を地方自治体の計画や予算に組み込む仕組みを構築し、その主流化を推進した。また、先住民族の権利の尊重や女性の参画促進を重視した取り組みを展開し、政策と地域社会を結ぶ持続可能な保全モデルを確立した。

アレクサンドラ・ツィーママン（ドイツ）

国際自然保護連合（IUCN）種の保存委員会（SSC）人間と野生生物の紛争・共存専門家グループ長



【受賞理由】

日本を含む世界各地で野生動物と人間社会との対立が深刻化する中、人間と野生生物の共存を生物多様性保全の重要課題として世界に提唱し、25年以上にわたり研究、実践及び政策形成を牽引してきた。IUCN SSC 人間と野生生物の紛争・共存専門家グループを設立し、国際指針の策定や実践ネットワークの構築を推進するとともに、平和構築や紛争解決の知見を保全分野へ導入した。また、研究者、実務家及び政策立案者を結ぶ国際的な協働基盤の構築を進め、この課題を生物多様性政策における重要課題として位置付ける。

※SCBDは国連の機関であり、カナダ・モントリオールに所在し、生物多様性条約の実施を支援しています。
(www.cbd.int)

■ The MIDORI Prize for Biodiversity (生物多様性MIDORI賞)

本賞は、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）および当財団設立20年を契機に創設し、生物多様性保全と利活用や持続可能な社会の実現に顕著な貢献をした個人を顕彰する国際賞として、当財団とSCBDが共催で隔年実施しています。受賞者には、生物多様性保全のための各活動を支援するために10万USドルを贈呈します。これまでに20カ国21名を顕彰してきました。また、当財団は受賞者との連携により、2011年からインドネシア・ジャカルタ、2014年からベトナム・ハノイ近郊での植樹の実施、2013年からのベトナム国家大学ハノイ校生のアジア学生交流環境フォーラム（ASEP）への参加や、2024年の生物多様性国際ユース会議（IYCB・横浜開催）への参加が実現しました。今後も受賞者との連携を強化し、環境活動を拡大していく予定です。（詳細はこちら <https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/prize/award/>）

■ 授賞式・受賞者フォーラム

- ・日時：2026年8月27日（木）16:00～17:30
- ・会場：帝国ホテル東京 2階 「孔雀の間 西」
- ・主催：公益財団法人イオン環境財団・生物多様性条約事務局
- ・後援：環境省・外務省
- ・参加申込み：<https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/2026midoriprizeforum/>

または、二次元コードよりご登録ください。



当財団とSCBDは、いのちあふれる美しい地球を次世代に引き継ぐため、生物多様性保全の支援をはじめ、環境活動を積極的に推進してまいります。

以上

【本件に関する問合せ先】 公益財団法人イオン環境財団 E-mail: ef@aeon.info
担当：吉永・新田

【参考】

■ 公益財団法人イオン環境財団

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと岡田卓也（当財団名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境に特化した民間企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に活動しています。（詳細はこちら <https://www.aeonkankyozaidan.or.jp/>）

■ 生物多様性条約（CBD）

1992年の地球サミットで採択され、1993年に発効した国際条約です。本条約は、生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、および遺伝資源の利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分を目的としています。現在、196か国・地域が締約国となっており、生物多様性に関する世界で最も重要な国際的枠組みとして、ほぼすべての国・地域が参加しています。2022年には、CBD締約国は、生物多様性の損失を食い止め、回復へと転換することを目的として、昆明・モンテリオール生物多様性枠組を採択しました。この歴史的な国際合意では2030年までに達成すべき野心的な目標と2050年に「自然と共生する世界」を実現するための長期目標が定められています。

■ The MIDORI Prize for Biodiversity 歴代受賞者一覧 所属はすべて受賞時のものです

・第1回（2010年）

ジャン・ルミール	生物学者・探検家・映画製作者（カナダ）
グレッチェン・C・デイリー	スタンフォード大学 教授（アメリカ）
エミル・サリム	インドネシア大統領諮問会議 議長 元インドネシア人口・環境大臣（インドネシア）
特別賞 アンゲラ・メルケル	ドイツ連邦共和国 首相（ドイツ）

・第2回（2012年）

フアン・カルロス・カスティーリャ	カトリカ大学 教授（チリ）
ロドリゴ・ガメス＝ロボ	コスタリカ生物多様性研究所 代表（コスタリカ）
ボ・クイ	ベトナム国家大学ハノイ校 自然資源管理・環境 研究センター 名誉総長（ベトナム）

・第3回（2014年）

カマル・パワ	アショールカ生態学環境研究トラスト 代表（インド）
アルフレッド・オテング＝イエボア	ガーナ生物多様性委員会 議長（ガーナ）
ビビアナ・ヴィラ	ビクーニャ/ラクダと環境 学際研究プロジェクト 代表 アルゼンチン学術研究会議 主席研究員（アルゼンチン）

・第4回（2016年）

アルフォンソ・アギーレ＝ムーニョス	島嶼生態系保全グループ事務局長（メキシコ）
ユーリ・ダーマン	世界自然保護基金ロシア アムール支所 所長（ロシア）
ヴァンダナ・シヴァ	ナウダーニャ 創設者・代表（インド）

・第5回（2018年）

キャシー・マッキノン	国際自然保護連合 世界保護地域委員会 議長（イギリス）
アサド・セルハル	レバノン自然保護協会事務局長（レバノン）
アブドゥル・ハミド・ザクリ	前マレーシア首相付 科学顧問（マレーシア）

・第6回（2020年）

ポール・エベール	ゲルフ大学 統合生物学部教授（カナダ）
メリーナ・サキヤマ	生物多様性グローバルユースネットワーク共同創設者 （ブラジル）
ウィルシー・エマニュエル・ビニユイ	環境活動団体カメルーン ジェンダー環境ウォッチ 創設者（カメルーン）

・第8回（2024年）

ヴェラ・ヴォロノヴァ	カザフスタン生物多様性保全協会 エグゼクティブ ディレクター（カザフスタン）
イサベル・アグスティナ・カル デロン・カルロス	環境活動団体 スマック・カウサイ 創設者兼CEO （ペルー）